

第 38 回腎癌研究会プログラム

日 時:平成 21 年 10 月 25 日(日) 10:30 ~ 14:40

第 47 回日本癌治療学会総会 翌日

会 場:コクヨホール(東京都港区)

主 題:「進行腎癌の初回治療不応例に対する治療の現状」

開会挨拶

(10:30 ~ 10:35)

Session 1

(一般演題) (10:35 ~ 11:23)

座長:小原 航 (岩手医科大学 泌尿器科)

- 1.分子標的薬時代に経験した腎細胞癌頭蓋内転移の 3 例
小中 弘之 (金沢大学大学院医学系研究科集学的治療学)
- 2.腎摘除後 4 年以上経過して後腹膜リンパ節転移を来し外科的に切除した
若年性 Xp11 転座腎癌の 2 例
駒井 好信 (東京医科歯科大学 泌尿器科)
- 3.スニチニブ投与中止後にインターロイキン2で維持可能であった肝転移の 1 例
堀川 洋平(秋田大学 泌尿器科)
- 4.Sunitinib が無効であった Sarcomatoid 腎癌に対して、IFN- γ + Sorafenib による
二次治療を施行した一例
宮崎 啓成(九州大学 泌尿器科)

Session 2

(一般演題) (11:23 ~ 12:11)

座長:松山 豪泰(山口大学 泌尿器科)

- 5.初回治療としての免疫療法に耐性の進行性腎細胞癌に対する
Gemcitabin/Capecitabine 療法の効果
曾我 倫久人 (三重大学 泌尿器科)
- 6.多臓器転移を有する腎細胞癌において分子標的薬スイッチの適切なタイミングは？
植村 祐一 (京都大学 泌尿器科)
- 7.初回治療に反応しない進行性腎細胞癌の検討
長根 裕介(日本大学 泌尿器科)
- 8.分子標的薬の切り替えが奏効した進行性腎細胞癌の 1 例
高山 達也(浜松医科大学 泌尿器科)

休憩

(12:11 ~ 12:25)

特別講演

(12:25 ~ 13:25)

座長:内藤 誠二 (九州大学 泌尿器科)

Sequential therapy, Combination therapy

演者: Jeffrey A. Sosman

(Vanderbilt-Ingram Cancer Center)

共催: バイエル薬品株式会社

休憩

(13:25 ~ 13:35)

Session 3

[一般演題] (13:35 ~ 14:35)

座長:中澤 速和(東京女子医科大学東医療センター 泌尿器科)

9.当院における進行腎細胞癌に対する分子標的治療剤交替治療例の検討

吉井 秀彦(防衛医科大学校 泌尿器科)

10.転移性・再発性腎癌症例における分子標的治療薬中止・不応例の治療経験

植田 健(千葉県がんセンター 泌尿器科)

11.当科における複数の分子標的薬使用経験

西田 幸代(札幌医科大学 泌尿器科)

12.分子標的薬の sequential therapy を施行した腎癌症例の検討

高橋 正幸(徳島大学 泌尿器科)

13.ソラフェニブ不応性症例に対するスニチニブ療法の成績

近藤 恒徳(東京女子医科大学 泌尿器科)

閉会挨拶

(14:35 ~ 14:40)